

「東京防災」・「東京くらし防災」編集・検討委員会
(第3回)

議 事 録

令和5年6月5日(月)

第一本庁舎9階 会議室

午前 10 時開会

○中林委員長 それでは時間となりましたので、第 3 回『『東京防災』・『東京くらし防災』編集・検討委員会』を開始します。進行は、前回に引き続き、私が進めさせていただきます。

これから委員会を進めるにあたり、諸注意を申し上げます。

本会は非公開で実施しますので、どうぞ忌憚のないご意見をお願いします。また、この委員会は、防災ブックのリニューアルに関して助言を行うものであり、いただいたご意見の全てを反映できるものではありませんので、どうぞご了承ください。

それでは、次第に沿って、本日の議事についてのディスカッションに移りたいと思います。

まず、議題 1「防災ブックの台割案」について、ディスカッションに先立ち、事務局より資料説明をお願いします。

○事務局 事務局より、第 1 回委員会で皆様から頂いたご意見をふまえて、防災ブックの構成案として台割案を作成しておりますので、ご説明をさせていただきます。

まず、「東京くらし防災」の構成ですが、第 2 回の委員会後に、個別にご説明をさせていただき、ご意見を踏まえて、一部修正しています。

修正点としましては、まず世帯で取り組んでいただきたいことを中心に据えつつ、家族構成、居住地域などを踏まえて、読むべきページを円滑に誘導し、自分ごととして捉えてもらえるよう工夫すべき、といったご意見を踏まえて、序章部分のイメージを再構成しております。詳細は後ほどご説明いたします。

序章以降につきましては、備え、発災時、発災後の時系列で、世帯で共通に取り組む総論を記載しつつ、家族構成や居住地域などを踏まえた各論に展開する形としております。

1～3 章を受けて、巻末には明日からの行動を家族で整理できるページを設けております。こちらも後ほどご説明いたします。

次に、冊子の構成を踏まえて、現時点での台割案をお示ししております。

この場での詳細な説明は割愛させていただきますが、見方としましては、一番左の数字が本のページ数、コンテンツのタイトルを右側にお示ししています。構成案に沿って、序章、次のページ以降、第 1 章が備え、第 2 章が発災時、第 3 章が発災後で、各章とも家族全員が取り組むべき総論の記載から、家族構成や地域特性に応じた各論の記載へと展開していく流れになっています。

以上が、現時点での台割案となります。本日は、こちらが審議事項の 1 つとなっておりますので、よろしくお願いいたします。

続いて、第 2 回委員会でご意見をいただきました、「東京くらし防災」の冒頭部分のイメージについてです。

6 ページにございますとおり、見開きのメッセージからプロローグ、ページ誘導という流れを予定しています

見開きと冒頭のプロローグの部分につきましては、議題 2 のデザインのところで、表紙と合わせてご意見いただければと思います。

次に資料 7 ページですが、家族のページは、家族等の名前と連絡先を左側に記載していた
だき、右側で家族の状況や心配事に合わせて読むべきページに誘導するという流れを想定
しています。

その次の資料 8 ページの地域のページでは、避難所等の情報を左側に記載し、右側で地域
の特性や心配事に合わせて読むべきページに誘導する流れを想定しています。

なお、事前のご説明の際に、いきなり「避難所等を書いてください」といっても書けない
人が多いので、「まずは避難所等の解説ページに誘導する、一通り読んでから最後に記載し
てもらおうほうがよい」というご意見があり、事務局としてもそのように考えておりますので、
こちらは修正できればと考えています。

資料 9 ページですが、序章の最後は、フローチャートで防災力を調べ、読むべきページに
誘導するという仕掛けですが、こちらも上手く取り入れられればと思っています。

以上が、冒頭のイメージとなります。

次に資料 10 ページですが、巻末のイメージでございます。行動変容に繋げる工夫という
ことで、第 2 回委員会でのご議論を踏まえて、家族で確認し合える防災シートのようなもの
を最後に一枚掲載するイメージです。

こちらについてもまだ作成段階ですが、ご意見を踏まえてブラッシュアップしていけれ
ばと思います。

「東京くらし防災」の台割案については、以上となります。

続いて、「東京防災」の台割案について、ご説明いたします。

資料 11 ページをご覧ください。こちらも「東京くらし防災」と同様、第 2 回の委員会後
に、個別にご説明をさせていただいた内容と同様のものがございます。こちらの構成案を踏
まえて、本日、台割案を次の資料 12 ページ以降でお示ししております。「東京防災」の台割
案についても、詳細な説明は割愛しますが、本日の審議事項として、よろしく願いたいし
ます。

なお、参考として、最後に「東京くらし防災」と「東京防災」で、台割上共通するトピッ
クをお示ししています。共通するものについては書き分けが必要と考えています。

事務局からの説明は以上です。ぜひ台割案等を中心にご意見を頂戴できればと考えてお
ります。

○中林委員長 ありがとうございます。それでは、事務局からの説明を踏まえ、これから
意見交換をしたいと思います。

議題は、大きくは 2 つあり、1 つ目は「東京くらし防災」の構成。もう 1 つは「東京防災」
の構成と、この 2 冊の対応項目です。2 冊で同じ項目が掲載されている部分もありますが、
「東京くらし防災」に比べて、「東京防災」のほうが、内容が深まっているのが特徴です。
「同じことを繰り返し書くわけではない」という前提だと思います。そうした面からご意見
はいかがでしょうか。

○池上副委員長 「0 ➡ 1」の「東京くらし防災」で、「家具の転倒防止」、「出火防止」の

後に、「ガラス・トイレ対策」のようにしてほしいです。「ガラス対策」が、とても遅れています。各家を訪問すると、例えば絵の古い額縁等、平気でガラスが飾ってあるのですよ。それから消防団の詰所も同じです。2階に向かう階段に、表彰された証書などといった割れ物が飾ってあるのです。それらが全部ガラスなのですよ。気づいたときには、「ガラスの飛散防止フィルムを貼ってください」と言っているのですが、消防団ですらなかなかそれができない。それを一般家庭に「やれ」と言っても、できない。ですので、ぜひ「ガラス対策」というのを赤色で記載してもいいくらい、目につきやすい形で書く。そのくらい、「ガラス対策」というのは、遅れていると思いました。

○中林委員長 「行動編」の中に、項目として追記するということですね。他にいかがでしょうか。

○富川委員 委員の皆さんがいる場で、鈴木先生をはじめ、皆さんにも色々と意見もお伺いしたいことがあります。おそらく私だけの違和感ではないと思うことがあり、属性ごとの誘導の仕方について、インデックスにしたとき、これをそのまま書くつもりなのかもしれないですが、属性を示すこと自体が多様性を凄く狭めているという気がします。

私からのご提案ですが、これを女性、子供、LGBT といったような特性ではなくて、その「ニーズ属性」、例えば資料1の7ページにも書いてありますけれども、もっとわかりやすく、例えば「健康に不安がある方」、「言語に不安がある方」、「避難所に行きたくない、抵抗がある方」、「一人で不安な方」というような。高齢者でLGBTの方もいらっしゃるし、自分のことを高齢者だと認識していない方もいらっしゃる。そのような中で、このようにニーズで拾えるような形でインデックスを工夫できないかなと思うのですが、どう思われますか？

○中林委員長 私も、同じく感じているところで、今のお話の要、ニーズからインデックスを作ってみるというのは、確かに1つの良い方法かと思います。

それから、「世帯単位をベースにします」と序章で書いてあるにも関わらず、この基本的な構成が、女性や子供単位である書いていると、資料1のページは、属性や多様性という解釈になるのではないかと。家庭の中には、男性だけの家庭もありますし、子供がいない家庭もあります。基本的に、この本を作る時のベースは「各家庭に子供がいる」という前提で作るので、なぜそこで女性や子供を、属性として項目出しをしなければいけないのかなと。前から言わせてもらっていますが、まずは基本的な全体のベースになるお話のほうが良いのではないのかなと思います。

子供と言っても一概ではなくて、乳幼児から小学生、中学生でニーズの中身が違います。この辺の整理の仕方を考えてみて、今お話があったように、ニーズで読むべきページに案内するといいいかなと思います。一方で、「作品的には、このような属性を示す用語も必要なのかな」とは思うのですよね。本で調べるというか、作品を見るときに、LGBTや高齢者、障害者というのはやはり必要で、それがあって「どこを見てください」というような形で該当ページにつながるのかなと思います。

○事務局 事務局から今の段階で補足させていただきますと、資料１の１ページ目は、属性ごとに誘導する形のように書いているのですが、こちらの資料は冊子のどこかに掲載するようなものではなく、あくまでも本の全体的な構成をまとめた全体像になります。そのため、資料１の３ページの右側にある 70 ページの「女性・子供」や、74 ページの「高齢者」のような、詳細がまだ定まっていない部分の、ここをどうしていくのかという部分は、まだ決めかねています。資料１の１ページ目は便宜的にまとめているところで、そのまま本になるようなものではありません。今の「東京くらし防災」には属性についての記載がありますが、ページをはっきりと区切ることにしてもどうかと思っています。このあたりについて、ご意見をいただければと思っています。

○鈴木委員 これまで、私の意見は、「属性ごとにはっきりと分けるのはどうか」というものだったのですが、「わかりやすさ」とのバランス調整が必要かなと思います。例えば、トイレの問題もそうですが、すべて名称をなくした表記となると、逆にわかりづらく、混乱するという意見もあると思います。人権政策などに取り組む際も、便宜的に「子供」、「女性」、「外国人」と記載しているので、そのようなものを見ている人たちの視点もあるし、「あなたを取り残していない」というメッセージを与えることが難しくなります。

「どこから見たらわかりやすいか」ということを考える際に、「説明概念」になってしまうと、「どこを見ていいかわからない」というのはよく聞く声でもあります。LGBT の問題については「このまま出すのはどうなのかな」と私も思う部分もあります。自分で条例を作ったときに悩んだのは、その表現をしようとする、例えば、「(LGBTQ の) Q」の方はどう表現すべきなのかと、色々と概念が出てきてしまうこと。表記の仕方についても、LGBT 問題について、LGBT という認知が今広がっていることと、「連帯の概念なのですよ」ということで、わざと使う方たちなども多く、それが逆に広まってきている部分もあります。今、過渡期なのですけど、このような問題もあるので、どのような表記が良いのかな。NHK などはその言葉を使わないで、「性的少数者」や「性的マイノリティ」という言葉を使っていて、各局で色々と使い方が分かれている部分もあるのですよね。東京都の場合は、「LGBT 等」という形で表現しているので、このような言葉は使ってもいいのかなと思います。私も悩ましいと思っています。

○富川委員 例えば、括弧書きにするとか、「こういう人たちがこういうことに出くわすかもしれませんよ」というような誘導ではどうでしょうか。この属性の名称自体は、やはり作品を作るにあたっては凄く必要だと思います。ここに章タイトルとして、きっちり分けるのではなくて、ニーズの属性ということにして。例えば「乳幼児がいる人」のような。それを分かりやすくしてあげることは必要かなと思います。これを見て、説明概念に当てはまらなと結局読み落としてしまうので、工夫が必要だなと思います。

○中島委員 今のお話で、１つのやり方としては、「では、この人たちが実際にどのような防災対策をしたらいいか」、とか、「どのような備えが必要なのか」、ということ、まず洗い出すというところから始まるかなと思います。例えば、この中で私が一番ひっかかったの

が外国人という属性です。「外国人だからと言って、防災対策が違うのか」、「いや、違わないだろう」と思います。困っていることは言語のことだと思うのですよね。それ以外は別に、どの国籍の方であろうと、「避難所に行く」という動きが必要だと思うのです。それは、例えば前の委員会から色々お話が出ていますけれども、聴覚障害の方も「言葉に困っている」という意味では同じかもしれないし、多分自分の意志や、私たちの大声とかを伝えられないということが障害であるのかもしれないと思います。

このような、「何に困るのか」ということを洗い出して、そこから逆算してページを作ることができる気がします。例えば、こういうことに対策したほうが良い人というのは、LGBTの人かもしれない、子供がいる人かもしれない、高齢者の人かもしれないです。様々な困りごとや不安のある人を切り口にするなかで、そこにLGBT等という言葉が入ってくるのは変ではないと思います。LGBTという言葉は、別に差別用語ではなく、ただ説明するための言葉だと思います。

今現在2023年に、みんながピンとくる言葉というのも凄く大事な考え方なので、そのことを選ぶということは、私は本としては間違っていないと思います。属性で切るのではなくて、こういう個別対策、困ったこと。こういう対策をしましょうね。というところからのページ作りをしたほうが、ここには適しているのではないかと思います。

○中林委員長 ありがとうございます。資料1の7ページですが、今の話で言うと、特別な人の属性と言うよりも、「ある種の属性は、この家族構成にヒットしている」というのが見えます。見開きの右のほうに必要なのは矢印と数字だけですが、今のイメージですとイラストでずいぶんスペースを使っています。それはそれで効果あるのかもしれませんが。

私は、ここがマトリクスになっていて、お父さんが居てお母さんが居て子供一人が居ておばあちゃんが居てといった形で、簡単に言うと、言葉で探すとしても、「女性」「子供」「LGBT」「高齢者」「障害者」「外国人」では言葉が「心配」ということであったり、あるいは、障害者の種類は非常に多様なので、例えば目が見えないとか、耳が聞こえないとか、歩けないとか、災害時を考えたときに非常に大きな障害になりそうなものを小出しにして、それに左の属性を縦に一覧にしてもらおうと、名前のところの右側の該当するところにチェックマークがついてくるという形がいいのではないかと思います。

「うちのお年寄りは80歳だけど元気で大丈夫」という家庭もあれば、若くても障害を持っている方もいらっしゃいます。そういうことを含めて、「家族にはどういうことが必要なのかをここでマーキングして、そのページの説明をもとに探せる」という形で入れると、一番効果的に自分に必要なことを探せると思います。そういう入り口を作れるといいのかなと思います。今の構成案では、核心としてこの属性別だけで立っているのだから、「いきなりここから入るのか」といったイメージを受け取ってしまいますが、実際は序章のところが凄く「東京くらし防災」としては大事です。

本人が任せた家族が見ると思いますが、それだけでいいのかなという気もしないでもな

い。この辺の構成について、項目はかなり複雑になってしまいましたが、それを自分にとって必要なものをなるべく合理的にかつ的確にピックアップして、そこを読み取れるようにしていくことが大事だと思います。また、「東京くらし防災」について、右側のインデックスで、矢印で誘導する先は、2冊で1セットとなるので、「東京防災」でもいいと思います。

○鈴木委員 固まりかけていたところをまた崩すような感じになってしまっていますが、そもそも、家族という切り口でいいのかという問題提起をさせてもらいます。家族で括ると、半分ぐらい切り捨てられるというか、自身には関係ないと感じる人が出ているのではないかと思います。

中島委員がおっしゃっていたことで言うと、健常者で何でも自分でできる人、目も見えて耳も聞こえている、何でも自分でできる人を想定して、そこから外れていくと、色々な面で不自由が生じているわけですね。だとしたら高齢者や女性といった区分けは全部やめてみる。視覚が不自由な人とか、車椅子だったりとか、歩きが不自由だったりとか、そういったところで、それぞれ、何か防災の手当が変わってくるわけですね。そういった形で防災の手当を書き分けていく、という作りはあるのかなと思います。これまでの議論で進めてきた話を崩してしまう感じですが、そのほうがわかりやすいと思います。

○中林委員長 東京の場合、単身世帯が圧倒的に多いのは事実なので、まず「家族」と言った時に、「親がペアでいる」というイメージでしか取れないのだとしたらよくないと思います。「家族」ではなく、「あなた」について調べようとすれば、みんなに見てもらって開いてもらえるのではないのでしょうか。

「あなたの家族や大切な人について調べましょう」というようなことで、結婚しなくてもパートナーで同棲していれば、そういった人も入ってくる構成になります。「あなた」にしたからといって何も変わらなくて、むしろ受け手になるべく幅広く「防災と一緒にやっていきたい」と思う人のグループとして、この本を使ってもらえることが大事だと思います。

○中島委員 そう思います。パートナーがいる人もいますが、単身の方も凄く多いです。東京都は単身世帯の方が多そうですね。家族となると、私の場合は実家の家族になりますが、「東京くらし防災」の記入欄に書くべきなのかどうなのか混乱するかもしれないですね。私の場合、別に暮らしているパートナーはいるので、「あなた」について、と書いてあったら、私とパートナーの連絡先のことを書くと思うんです。家族のことも書くかもしれないですが、それは世帯を切り分けて、親に「こういうことしてね」とか、「各々の連絡先を一応知っておいて、きちんと書いておいて、すぐ連絡取れるようにしよう」とか。私の場合、実家が関東圏で近いということもあり、「自分が東京で被害にあったときに、連絡を取れたらいいな」とは思います。

単身世帯の方で、パートナーのいない方の場合は同世代の頼れる友達などを書くと思います。近所に住んでいる友達夫妻などのことが、私の場合は家族よりも先に浮かびます。

「家族ではない人たちと手を取り合って助け合わなければいけない」、「住所を知らなくても歩いていける家がある友達を作っておこう」といった記事を以前作ったことがあります

が、まさにそれだと思います。今、それを一番やらなければいけないのは東京都だと思うので、その辺りのことへの配慮があると、家族世帯単位で本を作るという話ではあるかもしれませんが、それよりも「あなた自身の本を作る」というイメージのほうが、本の趣旨にあうのではないかと思います。人によっては同居しているような家族のことを指すかもしれないし、パートナーがいる人のことを指すかもしれないし、友達たちと連帯する人もいるかもしれないし、LGBTの方もいるかもしれません。家族単位ではなく、あなた自身という方の本というほうが、合っていると思いました。

先ほど中林先生がおっしゃっていたお話は、連絡先を記入する欄が縦軸にあり、横軸に例えば「健康に不安ありますか?」「小さい子供はいますか?」「日本語不自由ですか?」「視力不安ですか?」といったことが並んでいて、自分でチェックしていくということだと思います。それで、例えば自分で、「子供がいる」とか、「日本語不安だ」といったチェックが入れば、該当するページを見ればいい、といったことがリストでわかるということだと思います。だとすると、特殊な例だけではなく、こういう備えをしておきたいとか、普遍的なこともこの中に入れていったほうがいいと思います。今の形では全然チェックがつかない人がいるかもしれない。私の場合、チェックがつかない気がします。そうすると、それはそれで他人事という感じになってしまうと思うので、マトリクス方法の場合、自分のチェックも入るような、一般的な内容もあったほうがいいと思います。

「家族で住んでいます」とかであれば、どちらかにはチェックがつくので、そういったどちらかはチェックできるリストにしてはどうでしょう。近所の友達います／いませんといった、自分でも当てはまることが入るのであれば、マトリクスにする意味は薄くあると思います。あまりそこにページを割いていくと、相当細かいものになりますが、そうなるのであれば、リストのマトリクス化は残念ですが、諦めるしかないと思います。

自分の当てはまるところを普遍的に入れていくとなると、順番に、基本的なことを守っていくことだと思います。更に特殊な例を入れていくということであれば、マトリクスにしないほうがいいと思うし、「東京くらし防災」に関しては、ある程度イラストが必要だと思います。文字ばかりでは、絶対やらなくなります。イラストは、このぐらい（旧「東京くらし防災」のテンションでというか、必ず入れたほうが絶対読んでくれると思います。紙の本のサイズは、小さいわけですし、文字だけのページは少ないほうがいいと思います。

○事務局 補足ですが、資料7ページのうち、「家族全員のための備え、何ページ」、「家族全員のための行動ルール、何ページ」、という部分については普遍的にみなさんに見ていただくページをイメージしています。あまり目立っていないかもしれませんが、その部分から、まずは備えの最初のページに飛んだりとか、避難の最初のページに飛んだりするイメージです。

そのうえで、個別の事情がある方は資料7ページ右下をご覧ください、という作りになっています。こうしたイメージに沿うような形で、台割でも最初の部分は、皆さんに共通して見てくださいという備え、発災時の行動のページにして、その後ろに、先ほど色々な議論があ

りましたが、それぞれの属性に応じた配慮すべき備えなどがあるという作りにしています。

○中林委員長 これまで委員の方々から出てきたご意見では、家族全員という言葉の場合、チェックをパスしてしまう人がいるという前提なので、何も読まない人が出てきてしまいます。共通性という意味では大事なので、例えば、資料7ページ右側、一番左上のイラストの説明は、体力や健康に不安があるという事実で「動けない」ということですが、これは何なのということを、左のリストとリンクさせていくという方法はあると思います。

マトリクス表を作るときには、見開きで終わらないだろうという想定がされるので、折込みで、大きな4ページ分の見開きのようなものを収録して、読者が自身でマトリクス表を見ながら選んでいくようなイメージを作るというのもありかと思います。

別の意見ですが、資料8ページのチェック項目についても、2ページ分ではなく4ページ分にするという方法もあり得るかと思います。一方で、資料8ページの中で、マンション防災の内容が突然出てくる印象があります。マンションであろうがアパートであろうが、要するにほとんどの部分は同じことだと思います。同じことをやってくださいということになるのですが、ここで突然、8ページ右側の「あなたの住んでいる地域の近所に住む心配事」というところに、マンション高層階、あるいは逆に言うと低層階の話が出てきます。それから、マンションの一階二階の低層階というのは凄く重要で、地震ではなく、水害の時に自分のスペースの中では垂直避難できないのです。水害の時は、1階の方が亡くなっています。鉄骨のアパートの一階の人が心配ですね。

そういう意味では、資料8ページの「住まいの属性」というのも、ある意味では、あなたとあなたの大切な人に必要な備えの構造的な型の属性の1つなのかもしれないと言う気がしています。「あなたの地域の避難場所はどこですか？」あとは「集合場所どこですか？」「避難所はどこですか？」というのは、むしろまさにリストで書き込むだけの話だと思います。

できることは、同居していたらみんなやと思います。同居していないけれど、家族で過ごしていること、住まいの形態が違うけれど、どんな住まいに住んでいるかということも、ある種の防災多様性を考えるうえで、属性の1つぐらいで捉えていただくこともありえると思います。

「東京くらし防災」を有効に活用するために、資料7ページと8ページをまとめて、あなたのインデックスマップを作り上げていただくことで、読者にとって最初の土台が作れるという感じがします。

○富川委員 資料8ページの書き込みに関しては、表紙裏表紙で考えると、裏表紙がいいのではないかと思います。それで、イラストや各ニーズを散りばめて誘導するようなやり方がシンプルでいいと思います。冒部部分に書き込みページを入れる必要はないかなと私も思います。

○中林委員長 この本をどう使うか、この本で何を見せてもらいたいかという意味で、「私」の問題だけに限定するのか、「私の大事な人」という目線も入れていいのか。奥付のあるほ

うではなく、表紙を開けたところぐらいにあり、この本が誰の視点のものかが分かり、書き込みは後ろのほうに付けるにしても、中をちらっと見てもらえるようなぐらいの配慮が必要かなと思います。

○富川委員 先ほど中島委員がおっしゃっていたことで、私も凄く共感ばかりですが、避難方法というか、避難というものの再定義が必要かなと思っています。多くの方々は避難という言葉を知ると、本当に避難所をイメージされる方が多いと思います。本当は、「あなたの大切なその近くの友人のことだよ」とか、「自分とその自分の周りに居る人達と安全な場所に一緒に居る」ということが避難行動であり、凄くハードルが低いです。避難とは何かということをお伝えしないと、自分の防災を考えると言った時に、「私は一人暮らしだから多分避難所には行かないかな」と、避難を諦めてしまう部分もあるので、そうではなく、「友達とコミュニケーションをとること自体が、避難行動につながる」というようなことを、「東京くらし防災」に関してはそのぐらいまで、目線を落としてあげることが凄く必要かなと思います。

あなたとあなたの大事な人というテーマは凄くいいと思いますが、それには、「ではどういう考え方を持ったらいいか」というメッセージが、表紙に書き込むぐらいで最初にあるといいと思っています。ワンアクションを起こせるようなメッセージがそこにあるとわかりやすいかなと思います。更にそのニーズが自分にも当てはまるようなニーズイラストがあれば、少しは興味を持っていただけるだろうなというふうに思うので、その辺の工夫かなと思います。

○中林委員長 資料9ページにフローチャートがありますが、こういったものの中に今のお話にあったようなイラストが入るといいと思います。

今災害が起きたら連絡したい人は誰か、「その人の所へ避難するのもいいです」という話や、「我が家は大丈夫だから我が家に呼び寄せる」というのも大事なことで、「避難所よりも、大事な人と一緒に安心しよう」といったものも防災になります。それがどれぐらいできるかを診断するものもいいです。1つの理想のマトリクスがあり、それに対して私はどこまでできているのか、といった形で個々人の防災力を診断するものがあるといいのではないかと思います。それにより、できていないこと、できていそうだけど心配なことなどが浮かび上がってきて、資料9ページにあるフローチャートができ上がってくるといいかと思います。

「あなたの生活」から入り、「災害が起きたらどうなるのか」ということに繋げて、「防災力を診断する」という流れにしていますが、この形では、スタートが「日頃から備えている」と言われると、途中で行き詰ってしまうのではないかという気がします。この辺りがどういうふうにできてくるかというのは、この後を読ませる上で大事なのではないかと感じています。住宅の耐震化は、ある意味でゴールのほうに置いてしまうものではないかと思っています。一番お金もかかるし、大変なことなので。スタートのところに、「あなたの住んでいるところはどんなところ」のようなことを書くのがいいのかは、わかりません。

この資料9ページの部分は、イラストが上手く作れるかどうかポイントです。上手く作

れば、そのページだけで講演会ができる、それぐらいのことができると、いいなと思います。

○鈴木委員 資料9ページにあるようなフローチャートについては、もっと頭のほうに持っていったほうがわかりやすいのかと思います。資料8ページのような書き込むページとリンクして分かりやすくなると思います。

○中島委員 こういうチャート式のテストは、自分ごとにするという意味で凄くいいアイディアだと思いますし、とても分かりやすく、自分が「ここだな」などと思いながら読むことができていると思います。そのため、前のほうに出すというのが凄くいいではないかなというふうに思うのが1つ。また、「さあ、ここで何を診断するのか」というのが凄く大事で、今は防災力となっていますが、これをやると、「自分がどの程度備えられているか」とか、「知識があるか」ということが分かるという位置づけかと思います。それを最初にやればいいですが、そうだとしたらその後が続く、例えば「書き込みをするページ」や「インデックスのページ」とは、内容は被らないほうがいいと思うので、棲み分けしたほうがいいと思います。

チャート式のテストで診断して、それとまた別のコンテンツがあると、ここは「階層が分かれている」という作り方にしないと、結局「自分はここにたどり着いたけれど、こっちではここを読めと言われて、どっちを読むのか」といった混乱が起きると思います。このテストの内容を何にするのかということは、提案を頂いてから議論したほうがいいのではないかと思います。そもそも、防災力という言葉は結構ぼんやりしている言葉だなと思います。「どの程度備えていますか」という意味合いでしょうか。

もしもチャートを頭にもってくるのであれば、備えのことでいいかもしれないですけど。家の中のチェックのような話に終始してしまうのではないかと思います。そこから先は内容が被らないように、「頼れる支援者になりましょう」、「身近な人を支援しましょう」、といったことをゴール地点にすることもあると思います。「自分がどういう行動をして他人の役に立てるか」、「どういう支援者になるか」ということを診断するチャートも作って分けたほうが、皆さんが読んでいて混乱はしないと思います。

本の頭に持ってくるチャートは「支援」に関してではなく、「自分のこと」のほうが良いと思います。本は長いとどうしても飽きてしまうものなので、支援に関するページの頭に持ってきて、そこから読んだりするやり方もありかなと思います。

○富川委員 中島委員は色々関わっていらっしやと思います。メイクの診断チャートが凄く参考になります。そういうチャートは大体4つぐらいで、自分の肌診断や自分に似合う色合いなど、そういったものを判断して、普段のメイクに活かすということを、ほとんどの女性がやっていると思います。そういうものに慣れているとすると、例えば、この防災力診断で言うと、「あなたは結構できているから支援する側にも回れるレベルだ」といったカテゴリーや、逆に最初から読んで欲しい人であれば、「防災ビギナー」のようなカテゴリーなど、自分がだいたいどの程度防災ができているかということが分かるようになっている

といいと思います。それを防災力診断というかどうかは別として、自分のタイプが知れるといいのかなというふうに思っています。

日頃から災害に備えているかいないかという結構どっちつかずの場合もあると思うので、例えば、一人暮らしの人と複数で暮らしている人であれば、それだけでニーズは変わってきます。イエス／ノーで進んでいけるように、もっと単純化してもいいのかなというのがあります。

○中林委員長 ご意見ありがとうございます。私が資料9ページの話を話したきっかけは、日本語の「避難」という言葉が多様すぎる、英語だとしっかりと使い分けるのに、日本語の場合、全部「避難」というので、何の「避難」の話なのか分からない、ということです。

防災ブックの中にも「避難」という言葉はたくさん出てきますが、こういうフローでこういうシチュエーションの時に行く「避難」について、避難所に行くだけが「避難」というわけではなく、「避難場所」に行くことは、命を守るための「避難」です。火災の場合は大きい公園に「避難」します。水害の時に事前に避難指示が出ますが、これもまだ災害が起きていないので、避難指示が出たエリアの人全員が対象となり、命を守るための「避難」です。水害時は雨が降っている可能性が高いので、この場合の「避難」先は、広い公園ではなく、屋根のある施設です。ただし、水害の場合は水が来る場所にはいられないので、地震の時と全く違う場所に避難場所は用意されることになります。こうしたことについて、間違うと言うよりも、「何が起きたらどうなる？」ということを知ってもらえるような系図を作れないかなと、実は私は最初のイメージで思っています。

こうしたことをやりだすと、色々な種類が出てきますが、基本的には、この資料9ページのスライドを用意して、次のページに4つのフェーズというものを準備することになると思います。防災ブックは基本的には「昼間都民」には配らず、「在宅夜間都民」に配るものになります。ということは、移動中はあるとしても、基本的には「家で被災した時の備え」というようなイメージかと思います。そういったシーンの防災の備えを、冒頭部分のように絵解き風に、今家にいて大きな強い地震が起きたらどうなってしまうのだろうということを、フローチャートに従って課題が見つけ出されていく、そういったイメージにできないかと思います。

「避難」のことを取り上げたいのであれば、地震の場合、違いはありません。水害の場合、「うちはマンション5階だから関係ない」と思う人もいると思いますが、実は地域の状況により、同じ5階でも全然違います。逆に言うと、地震の時、水害の時は災害のプロセスが全く違うから別物にして作ってあげたほうがいいです。

「私の防災問題を解き明かす」といったことをするとしたら、「自分の家は水害に全く関係ないと思っていたけれど、本当は関係あります。だから早めにあなたの大事な人を自分のマンションに呼んでね」という話をどこかに繋げられると、先ほどの、あなたとあなたの大事な人ということに繋がり、防災を考えましょうということにも繋がっていきます。

要は、ここまでの話で、私と私の大事にしたいグループをファミリーとしたら、そのファ

ミリーにとって現状どのような問題があり、それに対する答えを書くことになると思います。「それなら、読んでみよう」という気持ちになり、全部を読むのは大変ですが、「この項目は読んでみよう」といったふうに読んでもらえると思います。そう読んでもらえれば、今回の企画としては大成功だと思います。皆さんのお話を改めて伺いながら、これに非常に近い発想をしていただけているのかなというふうに思いました。

防災ブックについては、どういう構成にして、どういうページ番号をつけて、本日ご意見が出てきたようなイメージのものをどう作っていくか、ということをお話ししました。更に深掘りしたい人に対して、デジタルでホームページを作るという話は別途、本日の台割議論のその先にある話かなと思います。

○事務局 事務局から補足させていただきます。本日これまで、主に資料7ページから10ページまで、議論いただきました。これらのページについては、書き込む内容や、自分ごとにする構成にしていくという意味で、非常に重要なところと考えています。

本日も色々ご意見いただきましたので、事務局としても、もう一度より分かりやすく、とっつきやすい構成にしようかと思っています。

本日お配りの資料ということで、例えば「東京くらし防災」について3ページから5ページまで、「東京防災」について12ページから17ページまで示させていただいておりますが、この辺について、これから原稿を作っていくにあたって、流れや、抜けている視点など議論できればと思っていましたが、お時間もありませんし、冒頭部分が非常に大事だということもありますので、また個別に事務局のほうでお気づきの点があれば、伺わせていただければと思っておりますので、よろしくおねがいします。もし何かございましたら、またこの場でもご議論をお願いできればというふうに思います。補足は以上です。

○鈴木委員 確認ですが、ページのところについては、中林先生がおっしゃっていましたが、分かりやすさという点について、クイズや防災力診断というよりは、目次的にどこのページを読めばいいかを分かりやすくしたほうがいいよね、という話だと私は理解しています。防災のことを分からないままクイズをして、抽象的な話で防災ブックを読んでいくという話ではなく、「どこを見ればいいのかわかるようにする」というのが一番の目的という意味で言うと目次的なものになると思います。

○中林委員長 私の印象では、防災力診断をして、その後の更に学べるという形で、防災力を持っていないという前提で、冒頭に入れてダメ押しをするのか、あるいは防災力診断を最後に置き、本を読んだ後にやってみてどういう結果になるか、とチェックして、正解できるか確認するというやり方もあると思います。防災力診断というものは、本を読んだ結果を踏まえどうだったかという確認テストぐらいのイメージでもいいのかなと思いました。冒頭で防災力診断をやって、防災の中身はよく分からないけれど、とりあえずやってみて「あなたの防災力はよくない、だから勉強しなさい」というのだとしたら、冒頭部分はふさわしい場所だとは思いません。結局、冒頭部分は防災力診断ではなく、あなたの今の生活では「どういうことにぶつかるか」ということを見つけ出す場所だと思います。ただし、災害

について、このような状況になってこうになってしまう、ということを理解した上で、むしろある種の不安を感じれば中身をきちんと読んでもらえると思います。

防災力診断の目的が明快にされていればいいと思います。全部の知識があるから人が、「もう防災ブックを読まなくていい」となってしまうくらいなら、防災力診断は、確認テスト的に用いるくらいでいいのかなと思いました。

そうではなく、やはり「読んでみようと思わせる」双六を作っていくということは大事ではないかと思います。読んでみようと思わせる仕組みは本の冒頭に目次的なものとしてあり、思考クイズ的にやるのであれば、最後に付加的に、今の案とは違った形かもしれないけど、あってもいいと思います。冒頭部分に入れるものについて、私にとって読みたい目次をここで探し出す的なイメージです。

○鈴木委員 私の認識では、そういったものを目次だと思っています。

○中林委員長 どこを読めばいいのか何も分からない状態で見ると、読む人も分からないので、目次のように使えれば変わるのではないかと思っています。このようなことから、さきほどのマトリクスを横に関連させるような認識でいいのかと思います。

○富川委員 この「防災力」という言葉がそうさせるところがあるので、まずは「調べてみよう、あなたの防災」くらいのライトな感じで、フローチャートを最初に持ってくる。やはり、掴みは凄く大事だと思うので、そういうキャッチーなものをつけて誘導して、防災力や復習のようなチェックというのは最後にあってもいいのかなと思いますけれども、確認テストとは完全に分けて考えたほうがいいのかと思います。

○中林委員長 今の話では、「調べてみよう、あなたの防災」というものは、リストを作る前にあってもいいと思います。その時にこの本は家族ということに言及して、「あなたに限定しているだけではなくて、あなたにとって大切な人と共に助かるための本です」というふうにします。そういうつもりで、「あなたの防災を調べてみましょう」というものが最初にあり、そのページをめくったところに、個人の家族事情に関するページなどがあり、それぞれに属性があり、本文に入っていくというような流れでもいいかもしれません。漫画の代わりに双六のような話が上手く作れば。

○事務局 事務局から発言いたします。これまでのお話について、事務局としては、先ほどのフローチャートと、家族のページと地域のページを合わせて、最初に、どこのページにと誘導しようかと考えておりましたが、先生方のご議論を踏まえ、順番や書き方など、どういうふうにすればいいのか工夫してみます。ありがとうございます。

○中林委員長 「東京くらし防災」と「東京防災」でどういう役割分担するかを考える必要があります。同じ項目でも、コンテンツの中身が全く変わってくると思うので、そこは常に意識して作っていただきたいと思います。「東京くらし防災」と「東京防災」は「別々に作っています」ではなく、「これで一冊です」ということで、「入門編」のようなところと、「必ずやってもらいたい問題」と、それから「もうちょっとやってみたい問題」という形で、2冊のブックがうまく連携しているという形にしていただけると、記事の重なり具合で重要

なところが、逆に手厚くなります。書き込みすぎると読んでもらえなくなりますが、必要な知識として、ここまで備えてほしいというものがしっかりと書いてあるという形です。

それから命を守る「避難」と生活をする「避難」というのは、大きく分けて2つなので、命を守るためにみんなで助かろうということで集まるところが、「一時集合場所」や、居住地域によっては「一時避難所」あるいは「避難場所」ですね。「避難」のことについては、一度この中で概念の統一をしていただくことが凄く大事だと思います。実際、引っ越して困ることは、ごみ収集のシステムが違っていたり、避難の方法が全然違っていたりということです。

予定の時間を過ぎましたので、本日の議題はあと2つあるので、残りの議題を進めてから時間があればまた戻りたいと思います。ありがとうございました。

それでは次に第2の議題に入ります。「防災ブックのデザインなど」についてです。それでは事務局より議題の防災ブックのデザイン案等について説明をお願いします。

○事務局 資料のほうをご覧くださいと思います。ページ数が非常に多くなっていますが、まず表紙のデザインについてです。業者からいくつかいただいております、右肩のナンバー1からナンバー10まで、現時点のものを示しております。

また色味につきまして、事務局といたしましては、「防災ブックのリニューアルを打ち出す」という観点から、今の色と全く同じにはしないというふうに考えております。また、今回2冊セットとなりますので、セット感が分かるようなデザインにしたいと考えております。これを踏まえて、いくつか案を示してお示しをさせていただいておりますが、色味については、暖色系や寒色系、また関東大震災100年のロゴが黄緑色なので緑の濃・淡にしたものなど、色々なパターンを提示しています。デザインについては、大きく4つほどありまして、よりシンプルなものや家族をイメージできるものなどがあります。このほか、資料中ナンバー3や4のように、備えをイメージできるものや、「東京防災」のほうでは街をイメージできるものなど、叩き案ですが、いくつか示してございます。この辺について、本日ご議論をできればと思っています。

次に資料11ページ以降が序章の見開きのイメージでございます。先ほどお示ししたとおり、最初に見開きページを開いてからメッセージがあり、その後プロローグに繋がり、「掴み」の部分があるとご説明いたしました。が、「掴み」の部分でも、こういったトーンにするか、ということで、ABC案を示してございます。資料13ページがメッセージの部分でございます。資料14ページ以降にABCの案を載せております。それぞれの案については、A案は、災害に備えるイラストを描いてコミック風にしたイメージに近いものを示しております。資料15ページのB案は、イラストを用いて災害の恐ろしさを訴求していくようなイメージでございます。資料16ページのC案につきましては、写真や体験談を記載して、災害の恐ろしさのイメージを訴求するイメージとしております。前回の第2回の議論で、「なるべく冒頭部分にリアルなシチュエーションをイメージしてもらうのが良いのではないか」という意見もございましたが、改めて、本日こちらの冒頭のイメージについてもご意見を頂

戴できればと思っております。最後の 27 ページ以降は中面のイメージでございますが、これは表紙によって色やデザインなども変わってくるため、現時点では、こういう色にした場合の参考を示しております。事務局からの説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○中林委員長 ありがとうございます。どういうふうにお感じになったことを話してください。色使いは、大きくは暖色系と寒色系のようです。

○中島委員 私の専門分野だと思います。例えば、「東京都庁が発行するものという基準としてどうか」ということをお聞きしていくのがいいかと思います。

セット感という意味では、今回出していただいているものは、どれもセット感があると思うので、問題ないかと思いました。

私としては、「教科書」に見えると良くないと思っています。「いつものパンフレットが送られてきた」と思われると、やはり読んでもらえないことになってしまうと思います。いわゆる普通の本に近いというか、「公的な組織が作ったパンフレットではない」という雰囲気を出したほうがいいだろうなということです。後は、本当であればタイトルを統一したほうがいいかと思います。「東京くらし防災」と「東京防災」という名前のほか、「1」、「2」とナンバーが振られており、色々な要素が出てきていて分かりづらいと感じます。正直なところ、どちらも「東京防災」にして、「1、くらし編」、「2、知識編」のほうがずっとスッキリしますし、「東京くらし防災1」、「東京防災2」と書いてあると混乱すると思います。色々な事情が関わっているとは思いますが、本当であればそうしたほうがいいと思います。今からタイトルを変えるのが凄く大変という事であれば、それはもちろんご事情があると思いますが、もし可能であれば、タイトルは変えたほうがいいと思います。

後は、「あなたに寄り添う」、「あなたに読んで欲しい本なのです」、という本のテーマを考えると、私は緑ベースではないほうが良いのではないかと感じました。皆さんはどう思われますか。

○鈴木委員 私も、緑は違う感じがしています。それは法的な話ではなく感覚の問題なので言語化しづらいのですが、温かみという感じや、オレンジの感じのほうがいいなというふうに思います。また、セット感という点はやはり、私たちが集められているこの編集・検討委員会でこの名前を変えるのがどうなのかなとは思いますが、中島委員がおっしゃってくださったように、変えられるのであればそれかがいいと思います。逆に、「東京防災」と「東京くらし防災」のタイトルを小さくして、セットで両方が必要なのですよ、というサブタイトルが表に出ていくほうがいいような気はします。

○富川委員 案1は凄くいいと思いました。漫画もやはり、1巻が面白かったら2巻を読むのではないですか。また、同じ位置にナンバーが振ってあれば手に取るだろうなと思いますが、「東京くらし防災1」があると、「東京くらし防災2」がありそうな気がしてしまうので、そこは確かに私も違和感がありました。「1」、「2」というものをつけるのであれば、工夫がもしかしたら必要なのかなと思います。

○事務局 事務局から発言いたします。ブックのタイトルを変えることは難しいかと思

ますが、表紙デザインの工夫の中で、「1」というナンバーやメッセージを工夫して、どちらのブックを最初に読むかが分かるような形で、大きく出す事ができるかなというところは考えたいと思います。

○中林委員長 タイトルを変えるのは難しいということだと思いますので、最初から言い続けてしまい申し訳ないのですが、本当であればセット更新にしたいのなら、富川委員がおっしゃったような、「東京くらし防災1」があると、「東京くらし防災2」があるのかと思うのが自然なことだと思います。表紙のサブタイトルを大きくして、下のほうに動かしてもらった場合、フレーズは違いますが、見た目は「今やろう、災害から身を守るため」と全く同じような言葉が同じ位置にあるので、文字の大きさを変えるとだいぶ違うかなと思います。また、2行目が長すぎる印象があります。1つ目の行を大きくする、あるいはナンバー「1」の下に何か付けるなど工夫ができるかなと思います。

○池上副委員長 私も、色合いは暖色系のほうがいいかなという印象です。最初見た時の印象では緑がいいかなと思いましたが、本当に迷いました。黄色の場合、中身が気になります。黄色い文字が凄く読みにくいと思うので、黄色ではないほうが良いなと思います。「東京くらし防災」はオレンジに寄せている色にしていますが、ページに色がついているので、同じ色の文字にすると見辛くなります。全く違う白系の色などはどうでしょう。

○中林委員長 濃い緑はやめほう方がいいと思います。一番無難なのが、今のイメージのパターンではなくすんだ黄色とくすんだレンガ色だと思いますが、リニューアルした面が要るということもあると思います。

○中島委員 緑は凄く平和的なイメージでもありますし、正しいことが書いてある、という意味ではブルーや緑は誠実なイメージがありますが、今回のリニューアルの趣旨とは違うのかもしれないと思います。もし緑を使わなくてもいいのであれば、暖色系のほうが変わったものというか、新しいものになるのではないかと私も思います。オレンジ黄色ベースというか、中面のデザインのことは今後の調整だと思いますが、別に黄色というか、オレンジに合わせなくてもいいと思います。お話を聞いたら4カラーで印刷されるというのであれば、読みやすい色を使っていただくことで調整できる範囲のことではないかと思います。

○中林委員長 赤系統と青系統というパターンでもいいかもしれませんね。

○鈴木委員 セットで、例えば同じ色を両方に重ねるというのはどうでしょう。色の割合を反転させるという方法もいいと思います。例えば、ピンクベースで黄色を使っているバージョンのベースについて、セット間で両方にピンクと黄色を使い、どちらかを強めにピンクにするとか、白ベースにピンクを使っているピンクベースにして、白色の使い方を変えるという感じの設定です。セットだから同じ本だという意味で言うと、例えば「ピンクが7割ぐらいで少し黄色が入っている」とか、「黄色だけどピンクも入っていて、両ブックが合わさって1つになる」という考え方も凄くありだと思います。それで言うと、ピンク黄色ベースのところのピンクのほうの黄色い割合を少しイラストで黄色を差し色で使っていただくとか、逆のほうは差し色でピンクを使っていただくといった交換の仕方です。

○中島委員 そういったデザインもありだと思います。この辺は、デザイナーさんの範疇の話だと思うので、私たちが言えることは、大きいカテゴリーとして、「暖色系の方がいいのではないかと思った」という話と、タイトルとして「1」、「2」という「ナンバーを、どれだけわかりやすくできるのか」、という話だと思います。最初に「東京くらし防災」を手にとってもらうっていうのが一番大事なことで、それをどういうふうに見せていくかということだと思います。

ナンバリングの数字は入っていたほうがいいですが、今の案のボックスイラストは大きくて、イラストに紛れていて、埋没して見づらいかもしれないと思います。

また、表紙のキャッチコピーはこれで決定でしょうか。今のものはまだ案の段階ですね。であれば、これは丸々変えてしまうのもありだと思います。2行目までわざと合わせて、3行目で差を出していいと思いますが、多分パッと見たとき、違いは分からないと思いますので、キャッチフレーズは全然違うものにしたほうがいいと私は思います。普通に書店に置く本の場合は、タイトルをとにかく大きくします。一番言いたいことを、一番わかりやすく、遠くからでもわかりやすくします。ですが、今回の防災ブックは全部配布されるものなので、タイトルは小さくなくてもいいです。書店で手に取ってもらわなくていいので、そこに関しては「東京くらし防災」というタイトルを下げて、「この本を最初に読んでね」と伝わるようにすればいいと思います。フレーズについては、温かい言葉のほうが私はいいと思います。

1番目を「すぐできる」、「今日からできる」にして、2番目を「知識編」という風にしたほうが、ぱっと見た時に分かりやすいです。数字と文言をセットにして、一番大きく見えるようにして、イラストやタイトルは下に一覧でもいいかもしれないし、真ん中に入ってくるかもしれないし、縦に一覧でもいいかもしれないし、デザインの中に入ってもいいかもしれないです。とにかく、「キャッチフレーズ」が一番目立つようにするのが大事だと思います。必要なことは、目を切らないように、きちんと飛び込んでくる表示にすることだと思います。

○富川委員 タイトルについて何度もすみませんが、「東京くらし防災1」と「東京防災2」という表記に凄く違和感があります。また、今の案のボックスのデザインでは情報量が凄く多いので、中島委員がおっしゃるように、「その1」を目立たせるのであれば、「ステップ1」という表記にして、それが「東京くらし防災」を意味するというぐらいでいいかなと思います。

「行動編」と「知識編」というキャッチフレーズも、この状態だと結構分かりにくいので、もう少しばらけるといえるか、もしかしたら「行動編」「知識編」とわざわざ書かなくても、「1」から読んでくれるのであれば、それはそれでいいような気もするので、シンプルかつ分かりやすくするのがいいと思います。これに限りませんが、情報量が表紙にあまりにも多いのは、よく分からなくなってしまうので、シンプルでいいのかなと思います。

○中島委員 色々なことに配慮しようとなると、イラストなどの情報が多くなると思います。今の案のイラストも、東京都には山もあり、色々な人がいます、といったことだと思います。もちろんそれは公的な冊子として凄く必要だと思いますが、防災の本ということが表

紙から分かったほうが良いような気がします。例えば、「東京くらし防災」のほうの表紙イラストは本当に防災の本なのか、タイトルが違っていたら違う本に見えると思います。

「東京防災」も、タイトルがなくなったら東京都のパンフレットかもしれないという気持ちになると思います。そうではなく、ヘルメットでいいかもしれないですし、家で何か備えているような人でもいいかもしれないですが、防災の本と分かる情報にしたほうが良いと思います。表紙デザインのうち、4辺のイラストも、もっとみんなで何か支援をしているようなイラストでもいいかもしれません。そういう視点で表紙をデザインするのはどうでしょうと思いました。「1」、「2」とナンバーを振るのは誤解を招くので、ナンバリングはあったほうが良いと思いますが、「東京くらし防災1」と「東京防災2」というようなイメージではなく、タイトルを変えるのが一番良いと思いますが、変えられないのであれば、「上下巻」でもいいと思います。

○鈴木委員 表紙のフレーズについて、「行動」と「知識」というものは凄く分かりやすいので、あったほうが良いなと思いながら、私が仕事をしている感覚としては、物事を教えるときにはまず「知識」を押さえて、その後「行動」に移していますので、順番が「知識」の後に「行動」となっています。そのため、「行動」が先というのは、すぐにはしっくりこないですね。やはり、「すぐやろう編」と言ったほうが、より色々な人には届くような気がします。表紙ナンバーでは「東京くらし防災」のほうに「1」と書いてあるし、そういったナンバリングとセットで見れば、「すぐできること」、「今日からできること」が書かれている「東京くらし防災」のほうをすぐ読むほうと分かると思います。イメージとして、「東京くらし防災」のほうにケーススタディ的なことを書いてあるということだと思います。

○中島委員 「東京くらし防災」の記載は、ぎりぎりまでハードルを下げていったほうがよく、本当に色々な人に読んでほしいと思います。そのため、難しい言葉を使う必要はあまりなく、中身は「東京防災」のほうがとても専門的なことを言ってくるでしょうし、「東京くらし防災」のほうは、合わせて下げるということが必要かと思います。

鈴木先生がおっしゃるように、「東京くらし防災」についても、「知識編」ではあると思います。「行動編」と書いてありますが、必要な「知識」は記載されているので、まずはそこから読んでいく、ということだと思います。そのことを、もっともっとダイレクトに伝えてもいいのかもしれないと思います。セット感は凄く必要ですが、あまりにもセット感にこだわりすぎるとブックが一緒に見えてしまい、「必要な情報が入ってこない」という落とし穴もありますので、そこを上手く、分かりやすくすることが大事だと思います。「パート1」、「パート2」と付けたほうが、もしかしたら分かりやすいかもしれないですね。背表紙のところに「改訂版 2023」と記載されていますね。2つのブックをセットで改訂して1セットになっていて、「ナンバー1」から読んでください、「行動編」「知識編」と色々な要素があるため、どちらの本を先に読むのか分からなくなります。

もっと分かりやすく伝えるために、「すぐ編」、「やる編」にする方法も考えられます。もっと言うと、表紙イラストの黒抜きは漢字ではなく、「こちらから」、ということが分かるイ

メージにすることも考えてもいいと思います。デザインにナンバリングは必要でしょうか。私のイメージでは、2冊のブックが本棚に並んだ時に、手に取って表紙が「1」か「2」かは、あまり気にしないです。どちらを手にするかという時に「1」から取ってほしい、という思いはありますので、背表紙に入れれば、そこに関しては担保できるかなという気がします。2つのブックが本棚に並んでいたら、もちろん「1」から手に取ると思いますが、配布された時にまず開くかどうかというのは、最初のポイントですね。

○中林委員長 リニューアル後の裏表紙はどちらのブックも同じデザインになっていますが、現行の防災ブックの裏表紙は随分違ってしています。現行の「東京防災」のほうが、なんとなく裏表紙らしいと感じました、これぐらいの裏表紙のほうが、本を出してみたときに、分かりやすいかもしれません。場合によれば、現行の「東京防災」裏表紙に近いイメージもあるのかもしれない。記事をなくし、表表紙はあっさりさせて、裏表紙に大きい字でサブタイトルをつけるのは1つの案だと思います。表紙デザイン案では英語のメッセージが両方に入っていますが、字を大きくして、「まずこちらから読む」といったことや、「知識を深めたいならこちら」といったことを裏表紙に入れる作り方もあると思います。色々なパターンがありますね。

○事務局 デザインについての議論をありがとうございます。資料14ページ以降の、「東京くらし防災」の冒頭の部分についてはいかがでしょうか。

○中林委員長 表紙を漫画チックにして、冒頭も同じように漫画チックというのはあまりよろしくなく、目線や見方を変えたほうがいいかなと思いましたが、資料16ページのような写真も、リアルすぎると感じます。

○中島委員 資料15ページのようなデザインは楽しいと思います。15ページの左側が「震災前」、右側に「被災した時」のイラストを入れるイメージで、災害が起きた場合のイントロをあらわしていますが、14ページの左のような漫画にするのであれば、表紙にはこの手の漫画は載せないほうがいいと思います。私の感覚としては、もう少しあっさりとしたほうがいいのかなと思います。本日いただいた表紙の話では、イラストはたくさんありすぎるせいもあり、同じ構成で見られたこともあると思います。そちらと比べて、この冒頭の見開きに関しては、私は資料15ページをベースに、やることをやるというのがいいかなと思っています。資料14ページのコミック風というのもありますが、表紙とイメージが被ってくると思います。中林委員長がおっしゃったように、埋没してしまうという気もするので、これではなくていいかと思っています。

資料16ページの写真が一番視覚的にはポイントがありますが、これをやるのであれば、かなり正確に東京都のある風景があり、「震災になったらこのようなことになってしまう」ということを再現しないと、ただのディストピアのイメージCGになってしまい、結局嘘だということになり、防災が自分ごとではなくなる恐れがあります。もちろん、この案のままではないと思いますし、きちんと作っていただくことになっていると思いますが、かなり正確にやらないといけません。どういう被害の想定がされているのか。例えば、東京タワー

がはっきり折れてしまうなど、かなりリアルにならないと難しいです。あとは、いたずらに恐怖心を煽るようにも思えます。私であれば、「まずは普通の風景」があり、「後半で震災後はこうになってしまう」という表現は、同じ視覚で同じイラストにします。そこで、高速道路はこうになってしまう、水害はこういうふうに起きる、人がこのようにパニックになっている、ということ表現して、同じ風景が一瞬でこう変わってしまうということを、ポイントのイラストではなく、全部一緒のイラストに入れます。ほかのページではもっと細切れのイラストになってきますので、この見開きで、例えばこういうことが起きるという1枚の作りにしてみます。そのほうが知識にもなるうえに、視覚的な効果を得られる扉絵になるのではないかと思います。資料17ページから後ろの中扉のイメージはどうなりますか。

○事務局 中扉については、表紙が決まってからの色のイメージなので、参考です。

○鈴木委員 中島委員が以前作られた防災ブックのようなものが本当はいいなと思っています。後ろのほうのページいっぱい、水や軍手や帽子など、必要な物が出ているようなページが分かりやすいのかなと思います。

一点だけ。資料16ページの写真案がリアルで凄くいいなと最初思いましたが、一方で、実際に震災を経験している方々のトラウマが気になりまして、いたずらに恐怖心を煽るようになるという懸念を持っているので、その前のイラストのほうがいいのかなと思います。タワーとか高層ビルとか、イラストでは崩れている絵にはなっていますが、注意喚起にもなるし、トラウマ喚起にはならないかなとか思いながら見ていました。このぐらいさっさとイラストで描かれていれば、トラウマは大丈夫な気がしますし、一番適しているのではないかと思います。

○中島委員 ありがとうございます。今、鈴木委員が、おっしゃってくださったのは、私が前担当した防災の本に掲載した必要なグッズのページですね。防災のグッズを切り抜き写真で並べて、そうした写真とイラストを組み合わせた扉絵ですが、もしかしたらそれに関しては「東京くらし防災」のどこかのページで「備えをしよう」とか、「リュックの中に入れよう」とか、そういったページで、試行ケースを作ってもいいのかもしれないと思います。

○事務局 本日のご意見を集約させていただきます。表紙と合わせて、冒頭の部分について、もう少し具体的に入れ込んだものを今後提示させていただければと思いますので、今日のご意見を参考にさせていただきます。ありがとうございます。

○中林委員長 先ほどこの中身の議論と関係して中身に繋がりのあるようなものができるようなものが作ればいいのかと思います。では、次に報告事項です。防災ブックの配布方法について、資料3の説明をお願いします。

○事務局 前回の第2回委員会の際にご説明させていただいた配布方法につきまして、一部変更がございましたので、この場でご報告致します。資料3をご覧ください。前回の委員会で、配布方法についてご説明させていただきました。細かい点にはなりますが、配布方法について、第1段階で全世帯にポスティングにより配達し、ポスティングができない場合には第2段階として不在票に記載のコールセンターに連絡し、再配達により対面で受け取る

という方式を想定しておりました。しかしながら、予算との調整と踏まえまして、ポストインができない場合について、再配達するスキームから、お近くの行政機関にて不在票と交換していただく方式に変更させていただきたいと思っています。もう1つ、口頭で恐縮ですが、前回の委員会で、配送する箱について、B5サイズで、2冊を横に並べるという想定でお話させていただきましたが、B6サイズで、「東京くらし防災」を上にして重ねたコンパクトな箱での配送に変更させていただきたいと思っています。

変更の経緯ですが、箱の形状が変わったことが一番の理由です。それからもう1つは、箱の形状も横に広げるとポストに入りやすいのですが、コンパクトに重ねると少し分厚くなります。そうすると、場合によっては、ポストに入らないところも出てきますが、その場合は不在票をお持ちいただき、お近くの行政機関に行って交換していただくというやり方をしたいと思っています。

○中林委員長 ありがとうございます。

それでは本日の議題は以上ですが、4、5分時間が残っています。ほかになにかありますでしょうか。

○池上副委員長 資料1の構成案について、資料7ページについて皆さんの議論が続いていましたが、「自分と家族に必要だ」というところと、「あなたとあなたの大切な人」、「大事な人のために必要な答えを調べられるよう」にしたほうが良いというふうにおっしゃっていました。「あなたとあなたの大切な人」という考え方に「東京くらし防災」については統一するという理解でよろしいですか。そうすると、家族が入りますね。そのため家族がいる人は、そこを確認することになると思います。どなたにも該当するので、とてもいいと思います。

○鈴木委員 リニューアルした防災ブックは、色々なところのテキストとして使ってほしいと思います。家族に送りますが、それ以外のところにも送ってもらい、こういうものが配られる前提で私も研究しますし、特に保育園や高齢施設や、学校の先生がこれを見て学校でも使えるようなものになってもらいたいと思いますし、そういったことを、防災ブックの中に文面として入れてほしいと思います。

また、「要配慮者の支援者や教育者もきちんとこれを読んでください」という話が必要だと思っています。現実問題、話もしたのですが、防災ブックを基にして学校では防災ノートを作っていますが、それも改訂する作業にこれから入ると聞いています。自分が調査した中では、学校の先生は防災ノートを使っていないようなので、リニューアルした防災ブックとリンクして、教育や保育などの分野では、これに合わせて、「自分の受け持ちの子ども達に対して教えるために、知識を得てください」ということもどこかに入れてほしいと思います。また、「一時保護所の子ども達や施設の子も、ファミリーホームとかであったりとか、里親家庭であったり、大事な人がいる」ということも入れてほしいと思います。

もう一点、最近の「線状降水帯」の話などもあり、そうした新しい自然災害の話は「東京防災」のほうに入るとは思います。が、「1時間で何mm」とか「1日で何mm」と言われても、そ

れが何なのか全然わかりません。「1時間に何mmだとどれくらい危険なのか」とか、「このような場合は線状降水帯なので避難が必要なのか」とか、そういった話は今の「東京くらし防災」の中には無いので、解説ページのようなものを「東京防災」に入れてもらえるといいなと思います。

○中島委員長 「ページに限りがあるから増やせない」という前提に立つと、私は先ほど話した避難について、きちんと説明して欲しいですね。場所のイメージでも、一時避難場所、避難場所、福祉、避難所、在宅避難、隣戸避難、避難生活など色々な「避難」という言葉があります。

○富川委員 知識として正しく理解していただくことが凄く重要だと思います。最近、急に「線状降水帯」や「長周期地震動」などの言葉が知識もない状態で出ているので、それは皆さんの恐怖を煽るだけだと思います。それが何かを理解している人は凄く少ないと思うので、先ほどの避難所の「避難の定義」のようなものなどは、「東京防災」でいいと思いますけれども、必ず必要かなと思います。

○中島委員 「長周期地震動」の予測が一番必要なのは東京かもしれないと思います。つまり東京直下地震ではなく、他の地域の地震の時にどれくらい東京が揺れるのか。東日本大震災以上に揺れる可能性もあるので、絶対に知っておいたほうが良い知識ですが、多分ほとんどの人が知らないと思います。それはしょうがないですね、でもそういうことでいいですか？

東京に住んでいる人の中でとても多いパターンの1つとして、自身とは別世帯に、例えば親戚や親など、支援が必要な人が住んでいるというケースがあると思っています。家族が単身で支援が必要な状態で、一人で住んでいて、普段はケアを受けている場合、災害が起きた時はどういう風にしたらいいのか。結局支援するのは、家族だと思います。それで地域包括センターに連絡しておけばいいのか、ケアマネージャーさんとどういう相談をしておけばいいのかなど、考えることがたくさんあると思います。このことは、東京で凄く今、大変な問題なのではないかという気もしています。色々なケースの家族の形があると思いますが、別にそれは高齢者世帯に限らず、自分の世界のこと、近所の友達のことだけではなく、大切な人だけど、別に住んでいるケースもあります。そういうところの配慮についても、防災ブックには必要な視点なのかなと思います。

○中林委員長 今後原稿が出てきたら色々気がつくところがあると思いますから、ぜひ、ページは増やせない中でも、必要なことはしっかり書いてもらうことは大事だと思いますので、そういう余裕を持って作っておいたほうがいいのかと思います。

○事務局 現時点で、ページはこのぐらいのページでという風に考えていますが、フィックスしているわけではありませんので、本日いただいたご意見や、今後委員の皆様に見ていただき、これは絶対入れたほうが良いというものがあれば、個別に教えていただきたいと思います。全体のページ数を大幅に増やすというのはなかなか難しいかもしれませんが、記載事項のボリュームの分量を変えることはできますので、ぜひご意見いただければと思っています。

ます。

○中林委員長 防災ブックを読んでもくれる人のうち、恐らく一番多く読んでくれる人は高齢者だと思います。高齢化について、防災の新しいコンテンツが必要で、「インクルーシブ防災」という言葉もここ数年使われています。あるいはケースマネジメントについて、一人のことを集団で支援することもあります。東京では難しい課題ですが、これだけ人口が多く、高齢者も多いなか、本当に東京でケースマネジメントができるのかという課題もあります。ただ、新聞、テレビでもよく取り上げていますので、そういう新しいことはきちんと説明はしておくのいいと思います。災害に関する用語も増えていきますし、使われ方が変わっていき、ということもあります。その辺のことは、時事トピックスで用語集を少し議論していきましょう。

それでは、予定の時間となりました。今後に向けて事務局から何か説明があればお願いします。

○事務局 本日はありがとうございました。次回のスケジュールですが、次回第4回は、7月5日の午前10時から開催を予定しています。今回は実際の実稿を恐らくお示しできると思いますので、それを見ながらご議論いただきたいと思います。また、台割の案につきましては、今日のご意見プラスアルファの何かございましたら、個別に我々からもお聞かせいただき、なるべく早い段階で完成させて、原稿作成をして、7月5日はでき上がった原稿を基にお話しできればと思います。第4回の詳細な場所につきまして、またご連絡をいたします。以上です。

○中林委員長 それでは本日も本当にありがとうございました。以上で終了したいと思います。